



学生座談会で見てきた若者世代のホンネ

# 私たち、 こんな会社で 働きたい!

今回参加してくれたのは、学年も学校も目指す職業も違う現役大学生の3名。仕事やライフスタイルに対して違った価値観を持ち、それぞれの視点から意見を交わしてもらいました。



(左から)熊本学園大学2年生/小島 健吾さん  
九州ルーテル学院大学1年生/上田 千智さん  
熊本学園大学3年生/厚賀 一葉さん

## 事例集を見てどう思う?

**上田** 『青磁野リハビリテーション病院』さんが実施している「職場参観」がいいなと思った。こどもの授業参観はよくあるけど、逆に親の職場を見ることが出来るのは新鮮感じた! どんな所で働いているのかが知れるのはもちろん、こどもがお父さんやお母さんみたいになりたいなと感じて、その職業に憧れるってこともあるかも。

**厚賀** IT系とか、医療系は女性が多いので、子育てしながら働きやすい環境が整っているイメージだったんだけど、実際この事例集を見ると物流や警備会社とか、昔からある企業も認定されていて、素直に「すごいな!」と感じた。復職率100%の企業とか、2人、3人こどもを産んで復職できる環境なのも素敵だな。私自身将来こどもが欲しいし働き続けたいと思っているので、会社を調べる時はこういう育休取得率、復職率をチェックするし、将来の旦那さんとは同じ職場で出会うかもしれないので、男性の育休取得率もチェックしているよ。

**小島** 育休を取りやすいというのも大切だけど、こどもが1歳以上になってからは特に男性は働きながら子育てをすることになるから、その時の支援をしっかりと欲しい。「子の看護休暇」のように、こどもの病気とかでも当日休みも取りやすかったり、フレックスタイム制を取り入れていると「こいいいな」と思うかも。育児とお仕事どちらが大変かなって考えたら、たぶん育児の方が大変だと思うので。

夫婦と一緒に育児をやっていないと10年後とかに「あの時何も助けてくれなかった!」って奥さんに言われたら恐ろしい…。だからキャリアがストップせずに、育児がしやすい企業がいいと思う。

**上田** この事例集を見ると思っていた以上に熊本でも子育て支援に積極的な企業も多いんだなって感じた。でも、世代によって考え方も違うし、悩みや課題が違うので、世代間のギャップが埋まるのもっといいな。

## 将来どんな職場で働きたいって思っている?

**厚賀** 私は人と接するのが好きなこともあって営業職を目指していて、バリバリフルタイムで働きながら、子育てしやすい職場環境が理想かな。キャリアを諦めず働き続けたいので、夫にもしっかり育休を取得してもらって一緒に子育てしていきたい。

**上田** 私が目指している職業がコミュニケーションを重視するので、人間関係の良い職場で働きたいなって思っているけど、入社する前にどうやって見極めていいかわからない…。でも皆と話していた時に気づいたけど、育児休業の取得率とかも人間関係の良い職場が見極める指標の一つだなと感じて、勉強になった。

**厚賀** 確かに! 色んな制度があったとしても、実際に取得しているかが大事だね。有給消化率とかも大事だと思う。有給休暇が70日間フルでできる制度にもビックリ!

**小島** 確かにこんな風に“制度”をきちんと設けている企業が増えていると思うけれど、まだ個人レベルで男性育休を受け入れるのは難しいのでは? “バタハラ”とかも起きているんじゃないかな…。時代に合わせて新しいことを受け入れようとする企業は、わりと男性が育休を取ることに寛容だったりするのかなと思う。

**一同** え〜。マタハラとかは聞くけど、バタハラとかあるんだ!

**小島** 自分にしかできない、代わりがきかない仕事をしたいと思っているので、もし将来こどもを授かることがあったら、子育てと両立させたい。だから他の人に代わってもらうのが難しくても「働くことへの援助」をしてくれる企業に魅力を感じる。ベビーシッター代を負担してくれたり…もっと直接的に支援して欲しい。しかも、子育ては心理的負担も大きいだろうから、会社が専門の相談員を雇うのもいいと思う。ハラスメントや育児だけでなくあらゆる悩みも相談できて働きやすくなるはず。

※バタハラとは…パタニティハラスメントの略。  
Paternityが「父性」を意味し、男性が育休や育児短時間勤務を請求したり、取得したりすることで不利益な扱いや、嫌がらせを受ける行為、言動を指します。